

News

FOR IMMEDIATE RELEASE

JUSTIN BURSZTEIN
Moody's Analytics Communications
001.212.553.1163

justin.bursztein@moodys.com

[Moody's Analytics Media Relations](#)



moodysanalytics.com



twitter.com/moodysanalytics



linkedin.com/company/moodysanalytics

あおぞら銀行、IFRS 第 9 号ソリューションとしてムーディーズ・アナリティックスの ImpairmentCalc™ ツールを採用

2018 年 7 月 11 日、東京 – グローバル金融情報会社のムーディーズ・アナリティックスは、あおぞら銀行が IFRS 第 9 号ソリューションとして、同社の [ImpairmentCalc™](#) プラットフォームを採用したことを発表しました。同行は、主として予想信用損失(ECL)の財務影響分析にこのツールを利用する予定です。

IFRS 第 9 号は、まだ日本の金融機関の要件とはなっていないものの、あおぞら銀行は、パイロットケースとして、同行の海外ポートフォリオにムーディーズ・アナリティックスのソリューションを利用することを決定しました。同行は、IFRS 第 9 号と同等の会計基準が日本で導入された際に、全社の連結ポートフォリオにこの手法を適用することも視野に入れています。

ムーディーズ・アナリティックスのマネジング・ディレクターの朱天偉は、次のように述べています。「今回、今日の競争の激しい融資環境での成功を支援するツールをあおぞら銀行様に提供できることを非常に喜ばしく思います。当社のテクノロジーとアドバイザリー・サービスは、同行における IFRS 第 9 号や他の戦略的事業ニーズを目的とした予想損失の評価能力の向上をサポートします。」

あおぞら銀行は、本取り組みの計画段階において、ECL の影響を効率的かつ効果的に評価する手段として、ムーディーズ・アナリティックスの既製の ImpairmentCalc ソリューションの活用を選択しました。同行は、世界の複数の大手金融機関のベストプラクティスも評価した上で、今回の決定を行っています。

あおぞら銀行の最高財務責任者(CFO)の関澤行雄氏は、次のように述べています。「ムーディーズ・アナリティックスのソリューションは革新的で、当行の ECL 計算分析ニーズにマッチし、将来的な日本の会計基準の変更に備えるための強固な基盤となります。加えて当行は、ムーディーズ・アナリティックスにおける本分野の専門家と、本取り組みの推進を支援する強力かつグローバルなサポート体制も高く評価しています。」

ImpairmentCalc ソリューションに関する詳細は、[こちらをクリック](#)してください。

ムーディーズ・アナリティックスについて

ムーディーズ・アナリティックスは、お客さまの成長、効率性の向上、およびリスク管理を支援する金融情報と分析ツールを提供します。当社は、卓越したリスクに対する専門性と広範な情報資源、テクノロジーの革新的な応用を統合して、今日のビジネスリーダーが変化する市場に確信をもって対応できるようサポートします。業界をリードする当社のソリューションは市場で高く評価されており、リサーチ、データ、ソフトウェア、および専門サービスを組み合わせて、優れたカスタマー・エクスペリエンスを提供することができます。当社は、その品質、クライアント・サービス、およびインテグリティに対するたゆまない取り組みを背景に、信頼できるパートナーとして世界中の数千の機関に選ばれています。

ムーディーズ・アナリティックスは、ムーディーズ・コーポレーション(NYSE: MCO)の子会社です。MCOは、2017年に42億米ドルの売上高を計上し、世界各地に約11,900名の従業員を擁し、41カ国で事業を運営しています。ムーディーズ・アナリティックスに関する詳細については、www.moodyanalytics.comをご覧ください。

###